

NEWS RELEASE

<<http://www.takara-bio.co.jp>>

平成25年10月29日
TB13-0458

最新鋭 DNA シーケンサー導入により受託解析事業を拡充

タカラバイオ株式会社は、日本企業としては初めて、米国パシフィック・バイオサイエンス社製次世代型DNAシーケンサー”PacBio RS II”を当社ドラゴンジェノミクスセンターに導入し、本機を用いた遺伝子解析受託サービスを11月1日より開始します。

当社は、2000年にゲノム解析センターとしてドラゴンジェノミクスセンター(三重県四日市市)を設立して以来、同センターにおいて最新鋭のDNAシーケンサーを取りそろえ、顧客ニーズに合わせた受託解析サービスを提供して参りました。本機は、次世代型シーケンサーと言われる機種の中でも最新鋭機であり、以下のような特長を持ちます。

- 1分子リアルタイムシーケンス法
従来の試料調製時の増幅反応が不要、直接DNAシーケンスを測定するので、短時間でデータが得られます。
- ロングリードシーケンス
1解析で大量の長鎖長データが得られるので、以降のデータ解析工程が容易です。
- 高速解析
簡易な試料調製および、短時間シーケンスで、迅速に有意なデータを入手できます。

当社は本機の導入により、次世代型シーケンサー受託解析分野において今期7億円の売り上げを目指しており、日本におけるゲノムシーケンス解析の中心的存在として、今後とも基礎研究分野から創薬支援に至るまで幅広く注力してまいります。

解析サービスの詳細、価格やご注文については、当社営業部(TEL:077-543-6116)にお問い合わせください。

当資料取り扱い上の注意点

資料中の当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

この資料は、10月29日に京都経済記者クラブに配布しています。

この件に関するお問い合わせ先
タカラバイオ株式会社
事業開発部
Tel 077-543-7212

<参考資料>

【語句説明】

1 分子リアルタイムシーケンサー

1 分子レベルでリアルタイムに塩基配列を読み取ることができ、塩基の修飾も同時に検出できるシーケンサーです。読み取る鋳型の調製には PCR による増幅が不要で、GC 含有量に関わらず幅広いゲノム領域で均一なシーケンス結果を得ることができます。

ロングリード

1 回の反応により測定できる DNA 鎖長は従来型 DNA シーケンサーでは平均 200 塩基であるのに対し、本機での平均鎖長は 4,600 塩基程度です。

ゲノムシーケンス解析

ゲノム(genome)とは、生物のもつ遺伝子(遺伝情報)の全体を示し、その実体は生物の細胞内にある DNA 分子です。ゲノムシーケンスとはゲノムを構成する DNA 分子の塩基配列を決めることであり、これによって遺伝子や遺伝子の発現を制御する情報など様々な遺伝情報を得ることが出来ます。